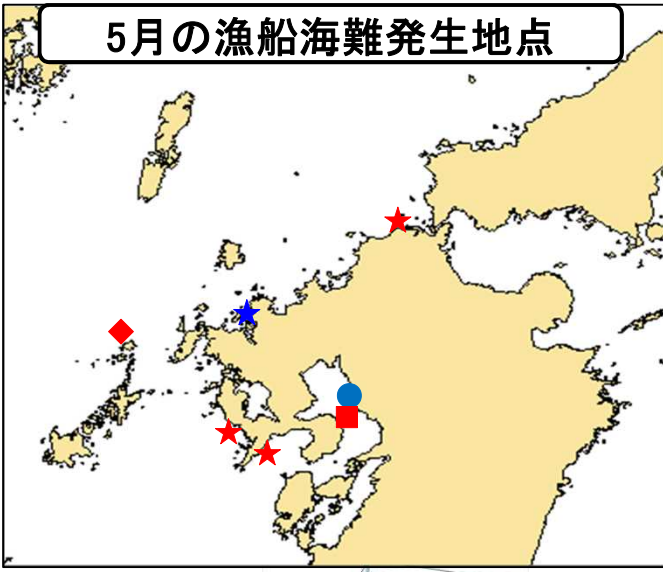


令和4年5月発生  
七管内漁船海難 計7隻

令和4年5月累計 31隻 (前年46隻)  
漁船海難発生隻数は前年に比べ **15隻減少**

漁船海難隻数 (速報値)		
衝突	★	3
単独衝突	★	1
運航不能 (無人漂流)	◆	1
運航不能 (機関故障)	■	1
浸水	●	1
合計 7隻 (昨年 9隻) 死亡、行方不明者: 1名		

県別内訳		
	5月	令和4年累計
山口県	0	4(4)
福岡県	3	7(7)
佐賀県	1	4(3)
長崎県	3	14(24)
大分県	0	2(8)
合計	隻	31隻 (46隻) ( )は昨年同月



累計死亡・行方不明者数: 5名 (令和4年5月末日現在)

## 衝突事故に注意!



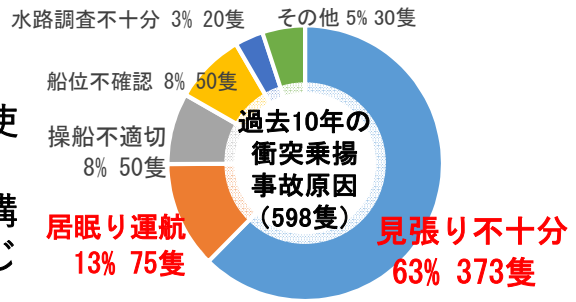
衝突事故を防止するために

### 見張りの徹底!

衝突事故の原因の約6割は「見張り不十分」によるものです。5月には、帰港中、漁具等の整理に没頭して衝突する事故が立て続けに発生しました。操業中・作業中は、作業に没頭し見張りが疎かになりがちです。常時適切な見張りを励行し、衝突事故を防ぎましょう。

### 居眠りに注意!!

居眠り運航の多くは、操業後の帰港中や自動操舵使用中に発生しています。もし、眠気を感じた時は、「窓を開けて換気」「体を動かす」などの対策を講じる他、普段から十分睡眠をとり、睡眠不足が生じないように規則正しい生活習慣を心掛けましょう。また、日中でも強い眠気を感じる方は、睡眠時無呼吸症候群の可能性があるので、検査や治療を受けることをお勧めします。



### 自動操舵使用時は注意!!!

自動操舵装置は、操船の負担を軽減し見張りに専念できるメリットはありますが、他船や障害物を避ける機能はありません。自動操舵中、他の作業に没頭すれば、見張りが疎かになり、衝突、乗揚げ事故に繋がります。自動操舵使用中であっても、常時適切な見張りを行いましょう。

また、次の場合は、手動操舵に切り替え安全に操船しましょう。

- ①港内 ②船が多い海域 ③荒天、視界不良時
- ④周囲に浅瀬等がある場合 ⑤潮流が強い狭水道 ⑥他船への接近時 ⑦変針時